第６号　2013 年 10 月 15 日

仙台教区　復興支援活動ニュースレター

４→６・４５通信

発行人：平賀徹夫　編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
TEL 022-222-7371　FAX 022-222-7378
義援金振替口座：０２２６０－９－２３０５
名義：カトリック仙台司教区本部事務局

4→6・45 通信第６号では、福島県の原町教会のこれまでのあゆみと、郡山教会の鍵谷和子さんの編み物教室を通しての活動をご紹介します。また、カリタスベースのポスターとチラシが完成しましたので、お知らせします。被災地では、まだまだ支援が必要です。様々な形でのご協力をよろしくお願いします。

今こそ、ボランティアの正念場！

これまでのあゆみ～復興と支援活動と共に～

カトリック原町教会　　高野 郁子

2011 年３月 11 日の大地震及び巨大津波により、福島第一原発では、水素爆発が起き、想定外の災害に被害状況の把握がままならぬ中、放射能の恐怖が人々を襲いました。

南相馬市では、市長の呼びかけもあり、多くの市民が避難し、20 ㎞圏内の他の町村は、南相馬市よりさらに緊迫した全住民の避難でした。このように、津波で家族や家を失った方々が大勢いる中、原子力発電所の事故により、さらに避難を余儀なくされました。

原町教会は、津波の直接被害はありませんでしたが、原発事故の被害を受け、屋内待避となり、信徒たちは教会に出入りすることが出来なくなりました。また、相馬市内の数人を除く多くの信者たちも、避難を余儀なくされました。

建物被害としては、屋根瓦の損壊、各部屋の壁が剥がれ落ち、モルタルにひびが多数入りました。修繕は、2011 年７月 27 日から 10 月７日までかかり、教会の庭には、除染されたたくさんの土が埋まっています。

2011 年８月頃から外部からの支援が始まり、多くの方が日曜日に教会へお出でになり、一緒に祈ってくださるようになりました。そして９月４日、CTVC のボラパックが始まり、その後何度も足を運んでくださっています。

CTVC ボラパックの方々と交流

このようにして１年が過ぎ、２年目に入ると、周囲から支援を頂くばかりではなく、原町教会も地域に出向いて何かをしなくてはという声が出始めました。
そこで、仮設訪問と情報発信を始めました。情報発信の前には、様子を把握し、何が必要かを調べました。

配布野菜の小分け作業

2012 年６月１日、CTVC 原町ベースが開所したことをきっかけに、教会内にも「コンコルディア」という支援組織ができ、CTVC と協力して地域支援の活動を始めました。

各仮設での「花いっぱい運動」や、二本松の「福島やさい畑」さんと協力して、仮設住宅１軒１軒へ野菜を配布する活動を始め、これまでに延べ 85 ヵ所の仮設住宅に野菜を配布しました。同時に、仮設住宅内で刺し子教室、パッチワーク教室を始め、現在４ヵ所の仮設

で約 50 名の住民の方々と一緒にパッチワークの活動をしています。

３年目となった現在も、野菜配布、パッチワークのボランティア、支援物資の中継など、CTVC 原町ベースの活動にも助けられて、継続的に支援活動を続けています。

狩浦神父様は、ボランティアに訪れる方々のために毎日朝７時からミサを捧げています。そして、シスター方のご協力は、絶大なるものがあります。2013 年４月には、マリアの宣教者フランシスコ会原町修道院が開設され、９月８日には、三位一体修道院が開設し、ボランティア活動にいそしまれています。

原町教会には、日曜日または日曜日以外にも多くの信者さんが訪れ、私たちと一緒に復興の祈りを捧げてくださっています。また、近くの CTVC 原町ベースで活動される多くのボランティアさんが訪れています。

これまで原町教会は、外部にはあまり開かれていなかったように思いますが、今回の震災を通して、外部に開かれた教会になりました。年４回のオルガンメディテーションと１回のオルガンコンサート、何年かぶりの洗礼志願者、教会を訪れるボランティアの方々、朝のミサ等とても活性化したと思います。

ただし、まわりを見渡せば、なかなか進まない復興、除染。気になる汚染水漏れ、住民の方々が自宅に戻れるのかどうか、不安な現実があります。その様子は、週に１度訪れる仮設住宅でのパッチワークにも現れています。

そして、浜通り一帯でまだ、８万５千人の避難者が存在し、福島県内では、15 万人の避難者がいます。南相馬市内の仮設住宅は、2,783 戸。８月 13 日現在、2,716 世帯、6,050 人が生活し、相馬市内にも 546 人が在住、入居希望が今なお多い状態です。原町教会の信者でも、遠方への避難者が 16 人います。

神戸の震災の時に関わった関係者の話では、「神戸では、２年後から教会としての活動が始まった。今からが教会としての活動が始まるのです。」というお話でした。原町教会では、実質活動できる人数が限られていますが、CTVC 原町ベースと協力して、今後もボランティア活動を継続出来ればと考えています。

2013 年７月現在の様子
進まない復興、除染…

「そこに居させていただく」関わりを心がけて

カトリック郡山教会　　鍵谷 和子

郡山教会の鍵谷さんは、毎週水曜日に郡山市富田町にある富岡町仮設住宅地内の「おだがいさまセンター」で行われる編み物教室に欠かさず参加しています。今回、編み物教室で知り合った仮設住宅の方とのひととき、紙漉き講座へ参加した時のこと、そして編み物教室に参加している仮設住宅の方々の様子の変化についてご報告いただきました。

◇「おだがいさまセンター」について

「おだがいさまセンター」は、富岡町仮設住宅地の真ん中にあり、富岡町社会福祉協議会が運営しているセンターです。仮設住宅に住んでいる方だけではなく、借り上げ住宅、県外へ避難された方、また郡山市の地元の方、広い地域からご支援いただいている方々が、コミュニケーションの輪を広げられるように、様々な催し物を企画し交流できる場を提供しています。また、富岡町から県内外の広い地域へ避難されている住人の方への情報提供や生活支援活動を行っています。

おだがいさまセンターの入口

センター内の予定表には、
書ききれないほどの予定が
たくさん入っていました。

◆仮設の方とのひととき

７月のある水曜日、編み物教室の先生の都合により、教室がお休みということで、教室で出会った方のお宅を訪ねました。その方は、仮設で一人暮らしをしている 70 代の女性です。

二人で１時間ほどくつろぎながらおしゃべりし、親戚の案内で郡山市内の商店や食事処を今では地元の方と同様に利用されていることなど、その方の震災からの年月の経過を知りました。

編み物教室の様子

また、仮設住宅は壁が薄いため、テレビや入浴の音、電話の声にも気を遣わなければならず、ストレスになっているが、仮設住宅に住んでいられる間は仮設を離れるつもりはないとのお話でした。ご家族の様子や、子供は別に世帯を持っているため、身内であっても頼るのは難しいという現状も細かく話され、見せてくださった手作りの手芸品の数々から、一人暮らしの年月を想像しました。

帰り際、お菓子をいただき、何も持たずに訪ねた私が、逆にご奉仕をいただいた心持ちでしたが、「こちらがしていただく」―この形でよい、と言い聞かせながら、またの訪問を約束しました。

◆紙漉き講座

富岡町から新潟県柏崎市へ避難し、柏崎仮設に住む富岡の方々が、そこで習得した紙漉きを離れたこちらの同郷人と分かち合おうと「紙漉き講座」を開催しました。

７月 24 日、たくさんの道具類と 20 人ほどの老若男女が、マイクロバスで「おだがいさまセンター」に到着しました。こちらの仲間も加わり、50 人以上の声が、再会の挨拶と情報交換で賑やかでした。紙漉き講座では、二人が一組になって木枠に沿って並ぶのですが、外から来たよそ者の私をも手を引くように加えてくださいました。

木枠での作業は、典礼の所作のように相手の手元と一緒に、笑ったり、はしゃいだりして楽しい時をいただきました。そして、「また何かあるときは一緒に組んでね」との相方の思いは、イエス様からの嬉しいささやきのように感じられました。

仮設住宅敷地内には、「物品の販売、宗教の勧誘お断り」という立札があり、社会福祉協議会からも「ボランティアに入る際には宗教色を出さないように」と言われています。信者の私にとって、イエス様のことを誰にも一言も話せないということは、仮設住宅へ通うほどに寂しさがつのります。しかし、イエス様は私の心に寄り添ってくれます。

◆仮設の方々の変化

８月は、編み物教室の方々もそれぞれに用事があったようで、９月４日からまた一緒に編み物教室に参加しています。

すると、夏以前と雰囲気が少し違っていると感じました。すでに２年半の仮設生活を経て、当初からの緊張から解放されつつある反面、仮設自治の運営や人間関係に問題が見え隠れしています。団結と助け合いで一致した絆も、もちろん当初の形で残っているようですが、長い不安と疲労によって、互いへの優しさが欠け気味であると感じます。

また、このごろは、具体的問題や出来事の互いの思いを知らせ合うのに熱心で、正直、会話に加わる雰囲気が難しくなっています。残念ですが、テレビニュース等の嬉しくない報道の影響も聞こえています。

仮設住宅入所の割り当て当初、町ごとではありましたが、くじ引きでの割り当てだったことから、かつての近隣の方々がバラバラの仮設となり、あまりにも離れすぎていることなどから、コミュニティーの連帯の難しさが見えている気がします。葬儀や祭りなど行事のやり方、意見の違いが、かつての「地域」の違いなのでしょう。編み物などでの気晴らしの時期は、過ぎつつあるのかもしれません。また、手立てを持たない弱者の孤立が心配です。

秋風が郷愁誘う頃には、皆さんの心持ちも変わるのではないかと期待しながら、これからも通わせていただくつもりです。

この度、カリタスベースのボランティア募集ポスター（A3 サイズ）とチラシ（A4 サイズ）を作成いたしました。ポスターやチラシを掲示及び設置してくださる方は、無料でお送りいたしますので、必要数と送付先を仙台教区サポートセンターまでお知らせください。

◇連絡先　仙台教区サポートセンター　電話：022-797-6643　メール sendaidsc@gmail.com

また、各ベースとも 10 月以降、ボランティアさんのお申し込みが激減しております。
被災地では、まだまだ継続的な支援を必要としております。皆様のお力をお貸しください。
ご参加を心よりお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。